

## 現代日本における社会問題の分析

田中重人 (東北大学文学部准教授)

### 1 『講義概要』 記載情報 (一部)

- ◆ 到達目標: 社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する。
- ◆ 目的・概要: 家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ。受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。
- ◇ 参考書: 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題 (30%)、途中経過等報告と討論での発言 (30%)、期末レポート (40%)

### 2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 論文に書く内容を決めるまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

### 3 授業予定

- (1) イントロダクション [4/11]
- (2) 論文について各自発表 [4/18]
- (3) 第1講 課題設定のための討論 [4/25]
- (4) 第2講 文献検索とデータベース利用 [5/9]
- (5) 第3講 近代日本の統計システム [5/16]
- (6) 第4講 資料の評価と活用 [5/23]
- (7) 各自のテーマと先行研究について報告と討論 [5/30]
- (8) 第5講 専門用語と理論体系 [6/6]
- (9) 第6講 アイディアの創出 [6/13]
- (10) 第7講 アイディアの交換と建設的批判 [6/20]
- (11) 途中経過の報告と討論 [6/27]
- (12) 第8講 プロジェクトとしての近代史研究 [7/4]
- (13) 第9講 研究の倫理 [7/11]
- (14) 発表会 [7/18]
- (15) 講評とまとめ [7/25]
- (16) 期末レポート [8/14] →返却 [9/5以降]

※ 受講人数などの都合で授業計画を変更する可能性があります。授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります (その場合、受講者の都合にあわせて日時を設定)。

## 4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示、教務係前の掲示板、学務情報システムによります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

## 5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

## 6 レポートのフォーマット

この授業では、長い文章を書くことは要求しない。期末レポートでは、つぎのような形式で、必要な情報を短くまとめること (通常、A4用紙2枚以内)

- 問い
  - その背後にある大きな問い
  - 問いの学問的背景
  - 問いの社会的意義
- 答え
  - 必要な予備知識と前提
  - 答えの根拠
  - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

## 7 宿題

自分の興味に合った論文を一つ選ぶ。  
その論文について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

5分以内で内容を説明できるように。

論文を読むにあたっては、参考書 pp. 84-90 など参考。

年 月 日

# 現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III

## (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (現代日本学以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている情報記録やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

# 第1講 文献検索とデータベース利用

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 先行研究の探索

## 1 先行研究を探すということ

### 1.1 探す対象

- 論文・書籍 (研究成果をまとめた文章)
- 資料・データ (研究の対象となるもの)
- 研究者・研究機関
- 研究プロジェクト (研究資金の流れ)
- 雑誌・データベース

### 1.2 探しかた

- 人に聞く
- 入門書・概説書・展望論文、一般向け雑誌、ウェブサイトなど
- 芋づる式
- 白書、データブック
- 各種データベース

一度の探索で網羅的に情報が集められるわけではないので、ふだんからアンテナを立てておくことが大切である。

## 2 論文・書籍のデータベース

研究成果は論文や書籍として発表される。

- 国立国会図書館サーチ <<http://iss.ndl.go.jp>>
- CiNii Article <<http://ci.nii.ac.jp>> → <http://tsigeto.info/2018/readg/r180420.html> など参照
- CiNii Books <<http://ci.nii.ac.jp/books/>>
- Web of Science <<http://webofknowledge.com/wos>> → <http://tsigeto.info/2018/readg/r180427.html> など参照
- Google Scholar <<http://scholar.google.com>>

そのほか、図書館のホームページ <http://www.library.tohoku.ac.jp> から「データベース」タブを開いてみるとよい。

最近は各出版社の電子ジャーナル、電子ブックや大学などの「機関リポジトリ」(repository) の整備が急速に進み、全文をオンラインで読んだり検索したりできる文献が増えてきている。その多くは有料であるが、東北大学で購読契約を結んでいるものは、学内のネットワークからのアクセスであれば読むことができる。

### 3 資料・データを探す

研究対象による。自分の研究分野の入門書や、代表的な研究機関のサイトなどを調べるとよい。

### 4 研究者・研究機関を探す

大学などでは、所属する研究者 (教員・研究員・博士課程学生などをふくむ) の研究成果の情報を収集している。これを集積したデータベースが公開されており、そこから各研究者がおこなった調査の情報を得ることができる。

- 科学技術総合リンクセンター J-Global (科学技術振興機構) <<http://jglobal.jst.go.jp>>
- Researchmap (国立情報学研究所) <<http://researchmap.jp>>

また、研究者が個人的にウェブサイトを開設していたり、SNS等で情報発信していることも多い。

論文等について質問したい場合、著者本人に問い合わせてみるとよい。雑誌論文には著者所属やメールアドレスなどが書いてあることが多い。また上記の J-Global などでも連絡先を調べることができる。ただし、問い合わせの前に、公開されている情報をできる限り集めてから。

### 5 研究プロジェクトを探す

多くの調査研究は科学研究費補助金 (文部科学省または日本学術振興会) などの助成を受けておこなわれているので、その研究課題のデータベース中に調査の情報がかなりある。

- 科学研究費補助金データベース (国立情報学研究所) <<http://kaken.nii.ac.jp>>
- 日本の研究.com <<https://research-er.jp>>

### 6 雑誌・データベースを探す

各研究分野には、通常、その分野の中心となる学術雑誌がある。そうした雑誌については、新刊情報をチェックするとともに、過去にさかのぼって読んでおく。

雑誌がつくられる過程 (特に掲載する論文をどのように決めているか) に注意すること。

また、分野ごとにデータベースが作られていることも多い。

- 国立情報学研究所「学術研究データベース・リポジトリ」 <<http://dbr.nii.ac.jp>>

### 7 EndNote Web (文献整理ソフト) について

Web of Science 画面上部の「My ツール」から、メールアドレスを登録して使う。

- Web of Science でみつけた情報を保存できる
- CiNii などのデータベースからの情報も import できる
- いちど登録しておけば、学外からも使える

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

## 第2講 資料の評価と活用

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] データ・資料の収集と評価の方法

### 1 書誌情報について

文献を特定するのに必要な情報を「書誌情報」(bibliographical information) という：

- 書籍の場合、著者名 / 出版年 / 表題 / 出版社
- 雑誌の場合、著者名 / 出版年 / 論文表題 / 雑誌名 / 巻, 号 / 掲載ページ (通常は雑誌名だけで特定できるので出版社は不要であるが、CiNii Books などでたしかめる)

論文でこれをどのように表記するかは、自分の分野の代表的な雑誌等のルールを確認しておくこと。

### 2 1次データ・2次データ

実証研究に用いるデータについては、「1次」「2次」の区別をすることがよくある：

- 1次データ： 自分自身で新規に (実験・調査・発掘・シミュレーションなどによって) 収集したデータのこと
- 2次データ： 他人が収集した (公開された) データのこと

1次データの場合にはデータ収集の方法や過程を自分自身が知っていて問題点を認識しやすいが、2次データの場合には必ずしもそうではない。

- メタデータ、パラデータとその評価
- 研究不正と実験ノート

### 3 1次資料・2次資料・3次資料

一方で、公刊された資料を利用する場合、その資料を「1次」「2次」「3次」等に分類することもある：

Primary sources are original materials that are close to an event, and are often accounts written by people who are directly involved. ....An account of a traffic incident written by a witness is a primary source of information about the event; similarly, a scientific paper documenting a new experiment conducted by the author is a primary source on the outcome of that experiment. Historical documents such as diaries are primary sources. ....

A secondary source provides an author's own thinking based on primary sources, generally at least one step removed from an event. It contains an author's analysis, evaluation, interpretation, or synthesis of the facts, evidence, concepts, and ideas taken from primary sources. .... They rely on primary sources for their material, making analytic or evaluative claims about them. .... a review article that analyzes research papers in a field is a secondary source for the research. .... A book by a military historian about the Second World War might be a secondary source about the war, but where it includes details of the author's own war experiences, it would be a primary source about those experiences. A book review too can be an opinion, summary or scholarly review .....

Tertiary sources are publications such as encyclopedias and other compendia that summarize primary and secondary sources. .... Many introductory undergraduate-level textbooks are regarded as tertiary sources because they sum up multiple secondary sources

Wikipedia (2019)

この分類の場合、**公刊された資料の範囲で** 議論の根拠をどこまでさかのぼれるか、が問題である。

## 4 データ・資料の選択・収集とその評価

各自の研究テーマに応じて考えてみる

### 文献

社会と調査 (2017) 「特集 パラデータの活用に向けて」『社会と調査』18: 4-61.

Wikipedia (2019) "No original research". *Wikipedia*. <<https://en.wikipedia.org/wiki/WP:NOR>> (15 March 2019, at 23:22).

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

## 第2講 資料の評価と活用 (つづき)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

### 1 授業内容

先週にひきつづき、各自の研究で使用する資料について討論。

### 2 次回までの宿題

次回の授業は「専門用語と理論体系」です。

次の資料を作ってくること

- 各自の研究課題について、専門用語を5-10個えらび、その定義と、相互の関係を示す
- 自分の研究に関連したどのような「理論」があるか、ひとつ以上紹介



## 第3講 専門用語と理論体系

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 用語・概念と理論について

### 1 概念 (concept)

- 名称 (用語)
- 内包 (intention): どんな性質のものか → 定義
- 外延 (extention): なにが含まれて何が含まれないか
- 分類と境界事例
- アイデア (idea) と理想型 (ideal type)

### 2 理論 (theory)

統一的説明を与えるための体系的知識。通常、概念間の関連のかたちで表現される。

- 共通性の発見 (帰納: induction) と概念構築 (conceptualization)
- 単純化とモデル (model)
- 公理 (axiom: 検証されない前提) と演繹 (deduction)
- 予測 (prediction) と因果 (causality)

### 3 仮説 (hypothesis) と実証

世の中が実際にどうなっているかに関して

- 事実、データ、資料
- 直観 (intuition) と仮説構築
- 仮説検証と論理実証主義 (logical positivism)
- 観察と実験 (介入)
- 共同主観 (intersubjectivity) と社会的事実 (social fact)

### 4 規範 (norm) に関する議論

世の中はどうあるべきか、私たちは何をすべきか (すべきでないか) に関して

- 価値 (value) をどう扱うか
- 正当性と一貫性

## 第4講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

### 1 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい (月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

### 2 KJ法

川喜田 (1967; 1970)

- マインドマップとはちがい、こまかいところから作りはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

### 3 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

### 4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくる。

## 文献

月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ "かき方" 超入門』アスキー・メディアワークス.

川喜田二郎 (1967) 『発想法: 創造性開発のために』(中公新書) 中央公論社.

川喜田二郎 (1970) 『続・発想法: KJ法の展開と応用』(中公新書) 中央公論社.

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

## 第5講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

### 1 課題1 マインドマップについて意見交換

各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- この段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

### 2 課題2 問いと答えの表を作成

配布資料 (大島ほか, 2005) 参照

次回までに完成させて3部持ってくる(うち1部を授業後に提出)。

### 3 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法

- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか
- 直観と内省

### 推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

### 価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

## 文献

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房.

佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應義塾大学出版会.